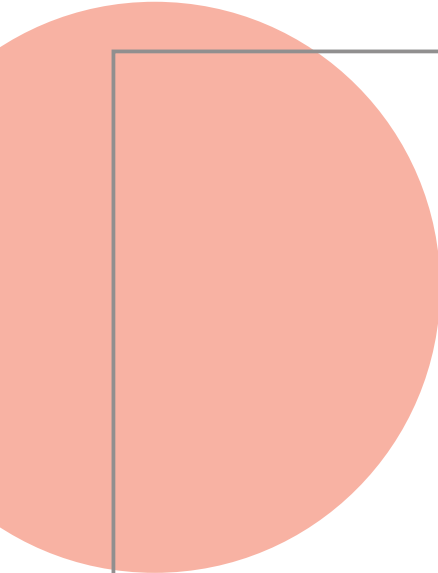


公益社団法人日本青伸会
神宮御萱地造成勤労奉仕80周年記念事業

協賛のご案内





唯一「神明造り」の象徴ともいえる

『茅葺き屋根』

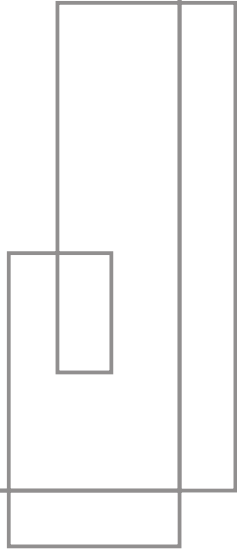
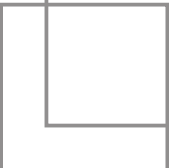
誠に畏れながらも前例に倣うならば、

来年には天皇陛下（大祭司）によって

御治定（日程）遊ばされ、

令和七年の山口祭から

神宮式年遷宮が始まります。



日本青伸会という神宮の奉仕団体をご存知でしょうか。

伊勢市民をはじめ、年末年始の初詣に参宮されている方々であれば目にしたことがあるはず、大晦日から元旦にかけて神宮の神域にて篝火（かがりび）を焚いている奉仕団体です。



伊勢の神宮、正しくは『神宮』といいます。

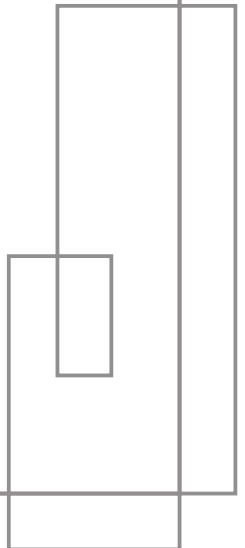
御祭神 天照大御神が坐す『皇大神宮（内宮）』、豊受大御神が坐す『豊受大神宮（外宮）』の二つの御正宮をはじめ、別宮、摂社、末社、所管社を含む 125 社の総称で、天皇陛下（大祭司）にとって皇祖神であらせられ、国民にとっては総氏神となる、正に日本人の「心のふるさと」であります。





20年毎に唯一神明造りの建築様式でご新調する大祭「神宮式年遷宮」

第一回(690年)より、幾度の危機を乗り越えながらも行われ、
永遠(天津国)の状態『常若(とこわか)』を現し続けています。



今から86年前、第59回目を迎える遷宮祭を前にし、唯一神明造りに肝心な茅葺き屋根の『萱(かや)』の不足が見込まれ、その育成が急がれました。

昭和17年、結成されたばかりの大日本青少年団は、全国より特に優秀な青年男女を選抜、奉仕隊を結成。

神の威徳に奉じた隊員数は述べ5万3千人。しかも、僅か1年3ヶ月余りで100万平方尺(東京ドーム約21個分)を、重機もなく、鍬、鋸等その作業のほとんどを人力だけで、開墾から萱(かや)の植栽までを完遂させたのです。

質素な生活のなか、仲間同士の協力で不可能とされた作業を完遂させました。その奉仕活動から生まれた「精神、奉仕・友愛・忍耐・進取」の精神こそが「御萱地精神(おかやちせいしん)」です。

これこそ、受け継いで行かなくてはならない現代の日本人が失いつつある、とても大事な日本精神であります。

この『御萱地精神(奉仕・友愛・忍耐・責任・進取)』を創会の理念とし、奉仕隊に参加した全国4,000余人で再結成した『屋船会』が、日本青伸会へと続いています。



沿革

前身

昭和 16 年 全国の青少年団を統合し大日本青少年団が結成された。昭和 24 年に齋行される予定の第 59 回神宮式年遷宮に際し、屋根の主要材である「萱」の充実を図るため、三重県度会郡小川郷村に 100 町歩（約 100 万㎡）を開拓する事となり、昭和 17 年大日本青少年団では全土はもとより樺太や台湾、東南アジアから特に優秀な青年男女を選抜し、神宮萱地造成奉仕隊を結成した。そして、1年3ヶ月の期間に延べ5万有余の隊員により開墾から植栽に至るまでを完成させた。

昭和 18 年 年奉仕終了後、約4千名弱により全国組織の「屋船会」が結成され、奉仕で培った「奉仕・友愛・忍耐・進取」の精神を後世に伝えるべく、また、記念事業として会館建設が計画された。

昭和 19 年 青少年指導者会議が開かれ、アジア青少年会館建設が決定された。この計画と合体する事となり、その用地として三重県宇治山田市（現伊勢市）に 30 町歩（約 30 万㎡）の土地を取得。

昭和 20 年 8 月敗戦により計画中断。

昭和 21 年 復員した奉仕者有志により神宮奉仕（古殿地清掃等）開始、萱地奉仕本部建物を神宮より払い下げを受け（財）日本青年館分館として前記場所に移設「鼓峰寮」と命名。年末年始神宮庭療奉仕・奉納開始（第 1 回）以降毎年開催。

昭和 22 年 4 月 青伸会誕生
「屋船会」を発展解消し、「青伸会」と命名

昭和 25 年 神宮司廳より正式な奉仕団体として認定される

昭和 34 年 伊勢湾台風により「鼓峰寮」倒壊

昭和 51 年 文部省（当時）より社団法人認可「社団法人日本青伸会」と改称。
（財）日本青年館より前記土の内約 2 万 8 千㎡無償譲渡受ける。
青少年センター「ひもろぎの里」建設に着手「ユースキャンプ」開始、以降毎年開催

昭和 58 年 植樹祭開催（第 1 回）以降毎年開催

昭和 59 年 「汗の浴場」鼓ヶ岳自然散策コース完成

昭和 60 年 「研修棟（座禅道場）」竣工

昭和 62 年 屋外施設整備

昭和 63 年 雨天屋外研修棟（営火場）完成

平成元年 野外炊事場、駐車場造成

平成 2 年 「山の神」現在地に鎮座

平成 7 年 （財）日本レクリエーション協会加盟

平成 8 年 クリエーション・スポーツ広場竣工
「ひもろぎの里」平和祈念碑完成

平成 13 年 外国人技能実習生・研修生受入事業開始

平成 24 年 3 月 内閣府より「公益社団法人」認定

「日本青伸会」は、次代を担う健全な青少年の育成を目的に発足しました。

昨今のいじめや学級崩壊など青少年に関する諸問題を目の当たりにするに付け、一番必要なものは、情操教育であると確信し、日本人の心のふる里として親しまれている伊勢の神宮内宮・外宮の中心地に「ひもろぎの里」を開き、この地を活動拠点とし、春は植樹祭、夏にはユースキャンプ、初冬には山の神祭、また、年末年始には神宮庭療奉仕と、活動を展開しております。

昭和 51 年文部省より社団法人の認可を受け「社団法人日本青伸会」に、平成 24 年公益法人改革で内閣府より「公益社団法人」の認定を受け「公益社団法人日本青伸会」となりました。

近隣諸国との平和共存の第一歩として、物づくりニッポンの優れた技術をアジア諸国の有能な青年に習得させるため、JITCO（公益財団法人国際研修機構）の指導に基づき日本企業に招聘し、その支援をする事業を行っています。



日本青伸会は、戦禍のさなか「青少年殿堂建設」のため用意されていた「神宮」に隣接する山地（約9,000坪）に、「青少年健全育成」と「御萱地精神」を継承する『ひもろぎの里』を昭和51年に開きました。





年間行事

4月は神宮より下付された貴重な苗木の「植樹祭」

7月は青少年育成を目的とした「野外活動（ユースキャンプ等）」

12月は神宮神職により祭典いただく「山の神祭」

そして大晦日から元旦にかけては、

夜を徹しての「庭燎奉仕・奉納」を神宮（内宮・外宮）神域にて

戦後休むことなく、78年続けてきました。



昭和51年から建設を計画していた 『ひもろぎの里』予定地のパンフレット



社団法人 日本青伸会 顧問			
神宮大宮司	二條 弼基	財団法人日本青年館理事長	小尾 馬雄
神宮少宮司	慶光院 俊	元奈良県青少年館理事長夫人	朝比奈富子
財団法人伊勢神宮崇敬会々長	松下幸之助	伊勢市長	加藤良六
国土緑化推進委員会理事長	徳川 宗敬	大阪府泉大津市長	茶谷徳松
大日本山林会々長	島田 錦蔵	医学博士	吉川 茂
日本ボーイスカウト連盟理事 前愛媛県知事	久松忠武	社団法人日本青伸会創立者	橋丸大吉
財団法人日本青年館会長	後藤文夫	社団法人日本青伸会創立者	田口賀太良

社団法人 日本青伸会 役員		建設委員会	
会 長	衆議院議員 藤波 孝生	委員長	少年画報社取締役社長 今井 堅
理事長	機鉄構社取締役社長 久本 弥吉	副委員長	松崎商事取締役社長 松崎 義通
常務理事	伊勢市観光協会会長 山中 隆雄	"	日本鋼構造協会事務局長 藤原 学
"	会議会会長 小野 喬	"	三喜産業取締役社長 小野 徳次
理 事	伊勢市商工会議所副会頭 乾 英夫	"	会議会ボムクラブ 小野 喬
"	跡見学園女子大学教授 太田 和彦	"	カナモク専務取締役 北川 智一
"	群馬大学名誉教授 杉 義雄	"	専務理事 渡辺 邦雄

当時はまだ、社団法人でありましたが、この大義なる志は決して私的な志ではなく、惟神（かんながら）の道からなる理によって集った奉賛団体から始まっています。

名簿には当時の神宮大宮司、小宮司はじめ、神宮崇敬会々長であった松下幸之助翁、徳川宗家の宗敬様。

そして、前回の FREEDOM FIGHT 6 の開催地『日本青年館』の会長、理事長、理事長夫人等々の錚々たる先人が、日本青伸会の顧問となり伊勢ユースセンター『ひもろぎの里』の完成と行く末を夢みて広く国民へ賛同を求めていた頃のパンフレット写真です。

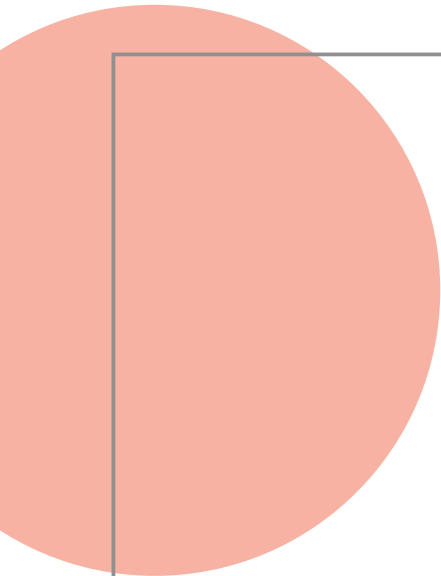
役員には、神宮御萱地造成に奉仕隊として延べ 52,000 名を動員され率いてくださった、日本青伸会の初代『久本弥吉』理事長、幹事には現在の四代目理事長であり、子息である「久本恵章」も連ねております。

私たちは如何なる政治団体や宗教法人にも属していません。
然し乍ら創会の原点が故に、神宮司廳より奉賛団体として
深いご神縁を頂戴しています。

私たちは、失われつつある日本精神の証「御萱地精神」を
基本理念に復活させようと仲間を集め進めてきました。

敗戦の廢墟から我が国を僅か二十年足らずで日本は、世界
が驚く経済大国に迄発展させましたが、占領下の歪んだ教
育により最高学府を始め、その環境に大きな変革をもたら
しました。国を愛する教育から離れた日本の背負いきれな
い代償は、数十年の停滞によって、いまや国家存亡の危機
にまで落ちかかっています。





私たちは地球上で希に見る 2683 年、営々と続く一系の皇統の下、

我が国の復活を願い、心のふる里「伊勢」を拠点に、

地味ではありますが、一步一步進めてまいりました。

「公益社団法人 日本青伸会」は、

令和 5 年に「神宮御萱地造成勤労奉仕」80 周年を迎える運びと為りました。

その昔、4,000 名から募る全国組織から始まったものの、

150 名まで会員が減少し、僅かな会費での運営で存続しておりますが、

国體存亡の危機を鑑み、今回の「80 周年記念事業」を機に、

遍く国民へ私たちの団体を知っていただき、篤いご支援を仰ぎ、

ご賛同を賜われる機会と願い、80 周年記念事業を企画いたしました。



改めて、

日本青伸会の存在の意義、

活動を広く深く楽しく知って頂き、

多くの賛同者を集い、

次世代へと本来の日本精神を継承して行くため、

より一層運動の輪を広げて

日本復活の一助になればと考えております。

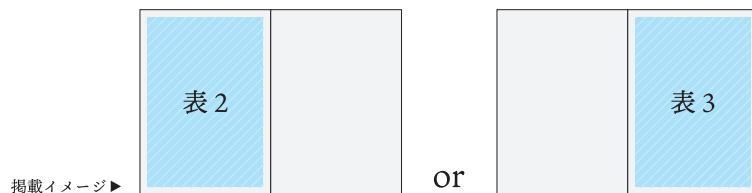


協賛メニュー

特別協賛

【300万円】

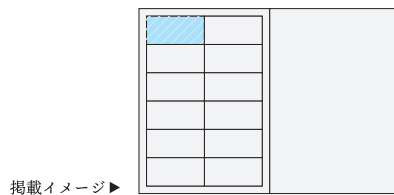
- ▶ チラシ(1万枚予定)・ポスタービジュアル(WEB含む)に名称掲載
- ▶ 当日配布冊子、表2若しくは表3の1ページフルカラー広告掲載



企業・団体協賛

【一口：30万円】

- ▶ ポスタービジュアル(WEB含む)に名称掲載
- ▶ 当日配布冊子に掲載(1口1/12ページ)



この記念特別冊子は、
6月3日伊勢市観光文化会館にて開催される
日本青伸会主催
HEAVENESE FREEDOM FIGHT 7
において無料配布します。

◎当日来場予定者数1,000名
その他日本青伸会の関連事業等で配布予定

◎HEAVENESEのファンクラブ5,000名へデータ版を送付

◎延べ800万人が視聴しているHEAVENESE styleの
視聴者層にデータにて配布等致します。

個人協賛

【一口：3万円】

- ▶ 当日配布冊子へのお名前の記載

お申込みはコチラから



<https://forms.gle/yUVLiEvmFRvuaMdk9>

※お振込み先は、(公社)日本青伸会となり、
特別寄付扱いでその他の寄付行為より優先して減税処置が受けられます。

フォームご入力後、ご入金口座の返信が届きますので、
そちらにお振込みをお願い致します。
ご入金確認が取れ次第、追って担当者より冊子掲載欄のデータ
確認のご連絡を差し上げます。

掲載申し込み締め切り： **5月17日(水)**